

9. 山梨県有病地の日本住血吸虫皮内反応実施成績(総括)

大田 秀 浄 渡 辺 照 代 三 木 あ い 子

緒 言

日本住血吸虫(以下日住と省略)病の診断は、検便に重点がおかれ、その他臨床診断、肝生検によつており、皮内反応、補体結合、反応沈降反応等は補助的診断の域を脱してない状態である。しかし現今はこれら補助的診断を生かすべき時代となつている。今日の様に感染虫体数の減少、免疫獲得等により、排卵数が極めて少く、自覚症状は軽度あるいは無自覚のものが多く、塗抹法による検便、又は臨床診断は極めて困難な現状である。検便方法も塗抹法でなく集卵法によることが望まれているが、有病地全住民を集卵法により検便を実施することは不可能であるから、集団的に短時間に、又信頼性のある皮内反応により、患者を抽出し、陽性者、出来れば疑陽性者について集卵法による検便を実施すべき日住病時代となつている。

本所においてはこの様な観点から、昭和33年7月より36年12月までに、これから伸びる青少年を本病から守るために、主に小中学校生徒24,616名に皮内反応を実施した成績を総括し報告する。

実 施 方 法

被検者の前膊内側に日住抗原液(Melcher変法)と対象液を0.01cc宛皮内注射し、その部に生ずる丘疹の面積を接種15~30分後に測定した。

測定はmm²の面積を規定した測定板を使用した。

判定は対照の面積の2倍以上を陽性、2倍を疑陽性、それ以下を陰性とした。

接種、判定を要する時間は1時間約100~200名。

皮内反応陽性、疑陽性者はMIFC変法による集卵法を実施した。

皮内反応、検便実施成績

小、中学校の各市郡別の実施成績は、既報の通りであつた。(小学校30校、中学校17校)(山梨衛研所報2,3,4号参照)

幼稚園、小中学校、高等学校、成人別にみると1表の通りであつた。

小中学校生徒では皮内反応を実施した学校を昭和32年度の県の報告による検便成績と比較すると2表の通りであつた。

1 表 幼稚園、小中学校、高等学校、成人別の皮内反応及検便成績

対象	皮 内 反 応				検 便 成 績							
	対象者	接種者	陽 性 者		疑 陽 性 者		陽 性 者			疑 陽 性 者		
			数	%	数	%	検便数	日住卵	%	検便数	日住卵	%
幼 稚 園	1 (原)	82	10	12.20	5	6.10						
小 学 校	30 校	12,999	1,045	8.04	680	5.32	661	60	9.08	458	4	0.87
中 学 校	17 校	6,750	1,153	17.08	366	5.42	736	116	15.90	202	0	0
高 等 学 校	1校 (農林)	876	393	44.86	27	3.08	309	52	16.83	20	1	5.0
成 人	8 部 落	1,929	1,440	74.65	66	3.31	473	61	12.90	17	0	0
計		24,616	4,041	16.41	1,144	4.65	2,179	289	13.22	697	5	0.7

2 表 32年度検便成績と皮内反応、集卵検便成績との比較

	昭和32年度集計			皮内反応及検便			
	検便者数	日住卵(+)	%	接種者数	陽性者検便	日住卵(+)	%
小学校(11校)	4,748	24	0.51	5,592	426	32	7.51
中学校(7校)	1,910	42	2.20	2,442	556	105	18.88
計	6,658	66	0.99	8,034	982	137	13.95

(註) 小中学校とも同一校

1. 日住皮内反応を昭和33年7月より36年12月までに有病地の主に小中学校生徒を集団的に24,616名に実施した。

2. 小学校における実施数と陽性者数は、甲府市282/4,891 (5.77%)、中巨摩郡218/2,633 (8.70%)、北巨摩郡146/761 (19.19%)、韭崎市253/456 (10.69%)、西八代郡25/456 (5.48%)、東八代郡70/1,101 (6.36%)、山梨市5/372 (1.34%)、南巨摩郡46/419 (10.97%)であり、総計1,055/12,999 (8.04%)の陽性者を認めた。

3. 中学校の実施数と陽性者数は、甲府市213/3,012 (7.07%)、中巨摩郡506/1,391 (37.1%)、北巨摩郡147/347 (42.36%)、韭崎市122/420 (29.04%)、西八代郡33/248 (13.31%)、東八代郡106/1,215 (8.71%)、南巨摩郡26/117 (22.22%)であり、総計1,153/6,750 (17.08%)の陽性者を認めた。

4. 高等学校の実施者数と陽性者数は、393/876 (44.86%)であつた。

5. 成人の実施者数と陽性者数は、1,440/1,929 (74.65%)であつた。

6. 総計24,616名に皮内反応を実施し、陽性者4,041名 (16.41%)、疑陽性者1,144名 (4.65%)であつた。

7. これら皮内反応陽性者の集卵法による日住卵陽性者は、小学校において、甲府市9/172 (5.23%)、中巨摩郡9/118 (7.63%)、北巨摩郡34/114 (29.82%)、韭崎市8/164 (4.88%)、西八代郡0/19、東八代郡0/69、山梨市0/5であり、総計60/661 (9.08%)疑陽性者中より4/458 (0.87%)であつた。

8. 中学校の検便成績は、甲府市6/52 (11.54%)、中巨摩郡54/337 (16.05%)、北巨摩郡42/140 (30.0%)、韭崎市12/114 (11.53%)、西八代郡2/25 (8.0%)、東八代郡0/68であり、総計116/736 (15.90%)、疑陽性者0/202であつた。

9. 高等学校の検便成績は、52/309 (16.83%)であつた。

10. 成人の検便成績は、61/473 (12.9%)であつた。

11. 総計し、陽性者2,179名中289名 (13.22%)、疑陽性者697名中5名 (0.72%)の日住卵陽性者を認めた。

12. 小中学校の皮内反応を実施した学校18校を昭和32年度県報告の検便成績と比較すると、32年度6,658名の検便(塗抹集卵を含む)による日住卵陽性者は66名 (0.99%)であり、本皮内反応実施数は8034名中陽性者982名を検便し、137名 (13.95%)であつた。

1. 日住皮内反応を24,616名に実施し、陽性者4,041名 (16.41%)、疑陽性者1,144名 (4.65%)であり、陽性者2,179名を集卵検便し、289名 (13.22%)、疑陽性者は697名中5名 (0.72%)の日住卵陽性者を認めた。

2. 特に小中学校においては、19,749名に実施し、陽性者2,198名 (11.13%)、疑陽性者1,046名 (5.35%)であり、陽性者1,397名を集卵検便し、176名 (12.6%)、疑陽性者660名中4名 (0.61%)の日住卵陽性者を認めた。

3. 皮内反応により患者を抽出し、その陽性者を集卵検便を実施することにより、小中学校においては11%の皮内反応陽性者があり、その陽性者中より12%の日住卵陽性者を検出した。これら日住卵の高率の学校においては、本法を実施することにより、本法を実施しない前年度より多くの日住病の患者が発見されている。

4. 今後は、学童、生徒の皮内反応陽性率と日住卵陽性率の高い学校、又はその陽性率の高い部落の成人を重点的に、本反応により本病患者の抽出、集卵検便を実施すべきであると考えらる。

主 要 文 献

1) 大田秀浄 (1959): 日本住血吸虫症と日本住血吸虫皮内反応について、山梨県立医学研究所報, 2号, 71~72.

2) 大田秀浄・土屋庄・渡辺照代 (1960): 山梨県有病地の日本住血吸虫皮内反応の実施成績、山梨県立衛生研究所報, 3号, 42~50.

3) 大田秀浄・土屋庄・渡辺照代 (1961): 山梨県有病地の日本住血吸虫皮内反応の実施成績(続報)、山梨県立衛生研究所報, 4号, 41~50.